

# ぶちらいふ

らいふ通信



らいふ萩園  
らいふ松林  
らいふ神明

2009.夏  
Vol.16

らいふホームページ <http://life.daikatsu-k.co.jp/>  
らいふ通信 <http://green.ap.teacup.com/lifekaigo/>

「薔薇と私とつながりきれいな歌を歌ったり。」



←なんと3.8kg!  
時にはこんな事までしちゃいます



玲子さんの入居当時は、2階の窓から走る車を眺めては寂しそうにされる日が続いていました。その頃の話をする「ああそんな事もあったわね〜今？今はぜんぜん！毎日楽しくて楽しくて」と笑顔でお話されています。玲子さんの後ろでは、いつもご主人の光男さんがそっと見守っていらつやあって、その優しさが玲子さんに明るさを取り戻させてくれたのでしよう。



「私は後ろでいいから、ほらほらピースよ」



「気をつけてくださいね〜」のスタッフの声かけに「大丈夫だよ！落ちやしないから」と木に足をかける姿は：正に、らいふ神明の「肝っ玉母さん」です！

「この人本当にやさしい人なんだよ」といつもご主人をべた褒め

## らいふ神明の「肝っ玉母さん」

らいふ家族  
岩田玲子さん



昨年4月にご主人と共にらいふ神明のグループホームに入居された岩田玲子さん。そのおほかで明るくユーモラスな人柄は皆さんから好かれ、スタッフにとってはお母さんの存在となっております。

梅の収穫では、脚立に登り大活躍。スタッフと共に



光

## らいふ歳時記 event



「中庭のガーデンテーブルにてコーヒータウン。カフェテリアに来たみたいだね」と好評です。お茶や食事を楽しんでいます。

ベランダで皆様枝豆とりです。



松林  
ずんだもち  
ネイルアート



神明  
カフェテラス

女性のおしゃれは爪の先まで！

萩園  
夏祭り



浜降り祭りの御神輿も見物して夏本番です。



夏祭り、今年は屋台に綿菓子も加わり、ヨーヨー・スーパースクール、スイカ割りなど盛り沢山。



光

投稿 萩園にお住まいの市場 功さんから



どぶ川を 皆の力で清流に  
植えて育てて 紫陽花の花  
両岸に 色とりどりの七変化  
流れも清し 地域の力  
恒例の アジサイ花見ロックの日  
鋭気戴き 明日への活力



※とても汚い川だったのを皆で話し合い、紫陽花を植えて管理しきれいにされたのでです



6月9日は錠前の日、この日にデイサービスで藤沢市遠藤へ紫陽花見物へ行きました。

お便りお待ちしております〜!

編集  
後記



メンバーは75歳〜93歳って何の集まり?と思えば、アメリカのロックコーラス隊『ヤング@ハート』のごとでした。先日三島は、この人たちを撮ったドキュメンタリー映画を観ました。最初はやらせじゃないの...と思いましたが、コンサートで披露する新譜を覚え、ジェームス・ブラウンの「アイ・ゴット・ユー」などソウルナンバーのノリに悪戦苦闘する場面や、メンバーの日常にカメラが迫ると、ロックとお年寄りがミスマッチだったのに、逆に彼らのパワーに圧倒されました。撮影したスティーブン・ウォーカー監督は「彼らは若返ろうとしているのではなく、そのままの自分だけで、精神が若いんだ」とコメントしていたのが印象的でした。ロック好きで、元気になりたい人は必見です。(み)

今号は『お口から健康を考える』をテーマに、らいふ萩園でお世話になっている歯科医の黒岩恭子先生・管理栄養士の宮津直美さんに協力いただきながら、メディカルチェックの特集を組みました。

人生の楽しみは飲んだり食べたりすることではないでしょうか？らいふ萩園ではいつまでもおいしく安全に食べるための取り組みを行っています。皆さんは汚れた口で食べ物を飲んだり食べたりすることは無いと思いますが、介護が必要なお年寄りは誰かがケアをしなければお口は汚れたままになってしまい誤嚥性肺炎の危険が高まります。



肺炎は癌・心疾患・脳血管疾患に次いで日本の死因の第4位、その死者の90%以上は65歳以上の高齢者で、うち70%が誤嚥性肺炎という調査報告があります。  
黒岩先生（写真中央）はいつも「様々な職種が連携して、家族を巻き込みながらチームケアを一緒にやりましょう」と私たちの背中を押してくださいます。

お口を清潔にするために、歯のある人も自分でお手入れ出来ない人も、簡単に出来る道具として（くるリーナブラシ・モアブラシ）を使っています。

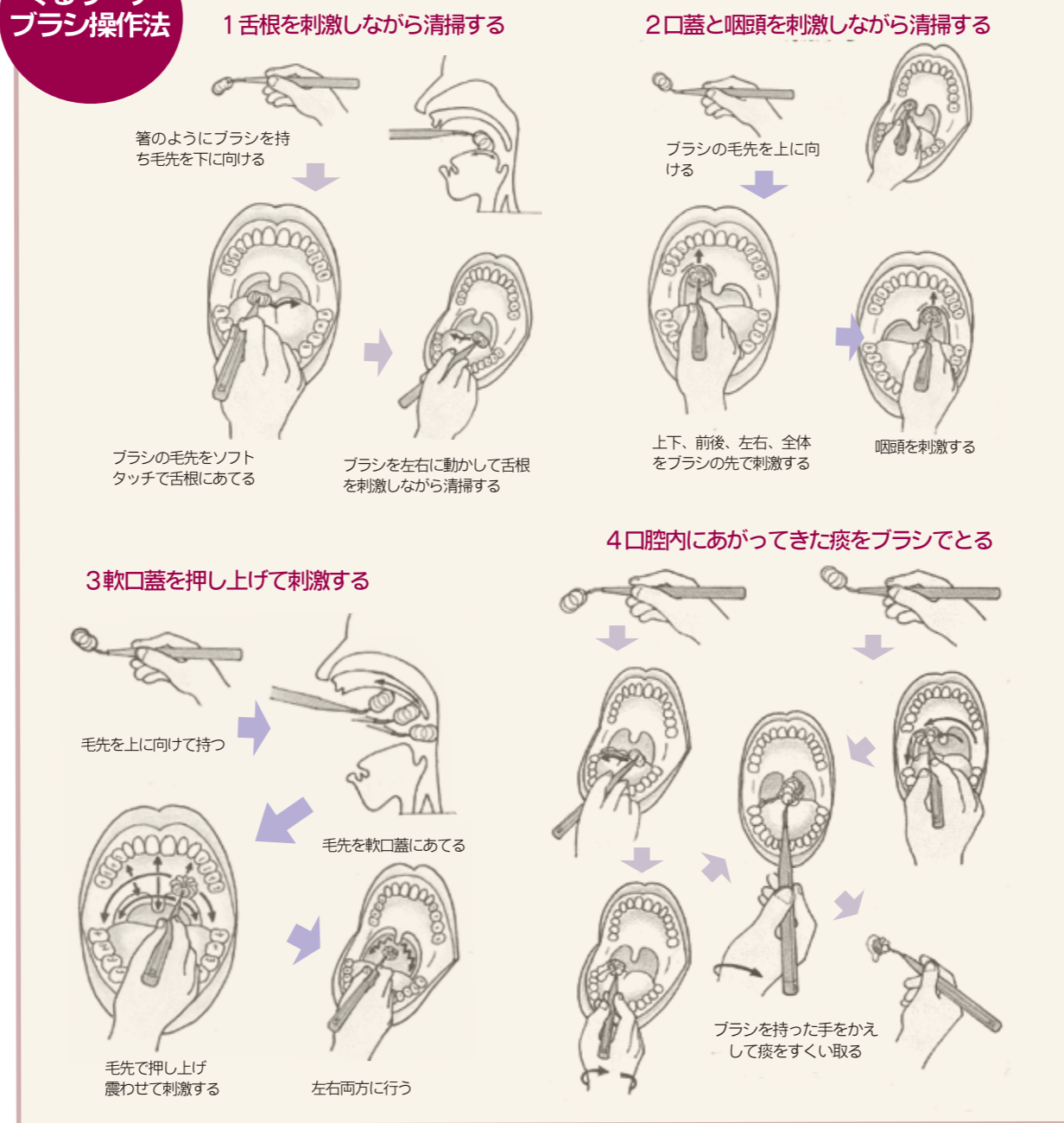


歯のある方は口の中を「くるリーナブラシ・モアブラシ」で清潔にしてから歯を磨く従来の歯ブラシが必要です。



モアブラシと普通の歯ブラシを実際に使って口腔ケアをしている塩崎肇さん

くるリーナ  
ブラシ操作法



食へることは高位な大脳の働きを必要とします。「ラーメンを食べよう」と思い描いた時から全身の細胞が動き出し、食べものを噛むことで脳の血液循環を良くし、脳細胞の代謝活動を活発にするのです。子供たちにはおおいに噛みごたえのある食事をさせましょう。高齢者にとってはボケ防止になるため、我々歯科医は噛める義歯を作る重要な使命を担っているわけです。

歯の二大疾患は、細菌感染によっておきる虫歯（虫歯）と歯周病ですが、よく噛むことで唾液が分泌され、唾液に含まれる酵素が菌を溶かして増殖を防ぎ、これらの予防につながります。ソムリエがワインの利き酒をする時にフランスパンを噛みながら行うことが知られていますが、決してつまみ食いしているわけではなく、唾液を沢山出して口の中を洗い、味覚を司る舌にある味蕾の働きを活発にしているのです。唾液が減少している時は赤信号だと思って注意してください。

私が専門としているスポーツ歯科の分野でも、噛み合わせを良くすると握力が強くなるなど、全身に影響を及ぼすことがわかっています。口は食事や会話をするだけでなく健康に影響すること、皆さんはぜひ意識して生活してください。



入れ歯の調整に往診中の荒川先生（らいふ萩園ステイサービス）



荒川 秀樹  
神奈川歯科大学補綴学教室講師  
歯科の立場から健康を考える

らいふの庭

らいふ萩園ではなす・スイカなど、夏野菜が沢山育っています



なすを植える小林夫妻。恒例となった小玉スイカは今年3個でき皆さんで頂きました。

湘南つれづれ②「湘南シネマ」

少し古い話になりますが、5月の連休明けに、地元を舞台にした「海の上の君は、いつも笑顔。」という映画が公開されました。ほとんどが市内でのロケで、主人公が茅ヶ崎高校高校生という設定の地元発のサーフィンと青春の胸キュンな映画です。新しい湘南シネマの誕生です。

映画の内容がどうの、俳優がどうのとはいいません。日頃見慣れた風景やお店がスクリーン一杯に映し出されるのです。我々はなんと素晴らしい所に住んでいるのだろうか、自慢したくなり、嬉しくなります。そもそも、茅ヶ崎は映画とはかかわりの深い街です。

昭和11年（1936年）に大船に松竹撮影所が東京の蒲田から引越してきて、監督や俳優、映画スタッフが茅ヶ崎周辺に住むようになりました。特に上原謙、加山雄三親子が東海岸に住み、小津安二郎監督が中海岸の茅ヶ崎館を定宿にして、代表作「東京物語」などの脚本書き、映画を作ったことは茅ヶ崎を映画の街にしました。（また、この建物は昨年末に登録有形文化財に指定されました。今度の映画にもこの旅館は出てきます。）

小津監督は茅ヶ崎の海周辺でのロケの映画が多く、「長屋紳士録」1947年、「晩春」1949年、「麦秋」1951年、「早春」1956年など数々の映画があります。この間のことは市史ブックレット7巻「銀幕のなかの茅ヶ崎」に詳しく述べられています。

小津以降も、「ライブ・イン・茅ヶ崎」1978年、「波の数だけ抱きしめて」1991年、「ハチミツとクローバー」2006年などの当地ゆかりの映画が作られました。

茅ヶ崎が映画の都ハリウッドのようになれとはいませんが、私たちの海が、街が、風景が、そこに暮らすわれわれが、いつも湘南シネマのふるさとであってほしいと願うものです。今回の題名を借りるなら、「わがまちの海は、いつでも笑顔。」です。（井）

